

まえがき

この書を執筆するにあたり、鍼灸の専門書は多く目にするのに対して、鍼灸を知らない人向けのものを見たことがありませんでした。

まだまだ鍼灸は、一般の人々にとってブラックボックスではないでしょうか。また、多くの偏見や風評被害があるのも事実です。

いくら私たち鍼灸師が、「鍼はものすごく効果があるよ」、「痛くないからやってごらんよ」と促しても眉ツバで苦笑いされて、「いや、やめとくよ」と言われるのがオチでした。

その背景には、感染や事故などの報道により、悪いイメージのみが独り歩きし、風評被害となりました。

それによる偏見がまだまだ払拭できず、一部の理解ある人たちにより支えられてきました。

「いや、そんなことないよ。だいぶん鍼灸も世に浸透してきているよ」という意見もありますが、

実際に私が臨床や世間のニーズを肌で感じるのは、按摩マッサージの方が断然多い気がします。

それは、やはり「鍼」という尖った構造上のイメージが与える「痛いに決まっている」という偏見です。これらのマイナスイメージを払拭するために本書を出版するのを決めました。

また、それらのマイナスイメージによって、

- ① 鍼は絶対にしたくない
- ② 興味はあるが、不安である
- ③ 一度してみてもいいと思う

と思っている人々のハードルを一段下げて、

① 「鍼は絶対にしたくない」と思っていた人が、

↓ 「なるほどそうだったのか、まだ受けたいとは思わないが興味が湧いた」

② 「興味はあるが、不安である」と思っていた人が、

↓ 「不安がなくなり、受けてみたいと思った」

③ 「一度してみてもいいと思う」と思っていた人が、

↓ 「ぜひとも受けたい」

となるよう背中を押してあげられる書になれば本望です。

この書は、あくまでも鍼灸に対して初心者のものでありますが、鍼灸を頻繁に受けていらっしゃる方が読んでも新しい発見があると思います。

鍼灸師が読むと、当たり前前の方が書いてありますが、その当たり前前の方が世の人に伝わっていなかったことがわかると思います。

ゆえに、専門書ではないので、技術や個々の方針については触れていません。